

令和6年度（2024年度）

金沢大学法科大学院

入学試験問題

刑 法

A日程入試

（注意）

1. 問題冊子（表紙を含む）は2枚です。
2. 問題冊子は指示があるまで開かないで下さい。
3. 問題冊子と下書き用紙は持ち帰って下さい。
4. 解答は、鉛筆、シャープペンシル、ペン、ボールペンのいずれで記入しても構いません。
5. 解答にあたっては、どの問題から解答しても構いません。ただし、どの問題についての解答であるのかを答案中に明示してください。

令和6年度（2024年度）金沢大学法科大学院入学試験問題

試験科目	刑	法
------	---	---

以下の問題について解答しなさい。

問題1（各5点）

以下の語句あるいは概念を説明しなさい。解答の際は、定義だけを記述するのではなく、学説の議論状況や判例の状況など解答すべき内容を問題に応じて自ら選択し、具体的な事例を自ら設定したうえでそれぞれ解答用紙5行程度で解答すること。

(1) 名誉に対する罪における「名誉」概念

(2) 財産犯の保護法益

問題2（15点）

次の事例におけるXの罪責を論じなさい。ただし、特別法違反の点は論じる必要はない。

Xは、K市内にある公園を歩いていたところ、茂みの中にうずくまる人影を発見した。その日Xは仕事で嫌なことがありむしゃくしゃしていたため、だれか知らないが怪我させてやろうと思い、茂みの中の人影に向けて持っていた空のビール瓶を投げつけた。茂みの中の人影はAであり、Aは、かつて仲違いしたXを殺そうと、Xに向け猟銃の狙いを定め、まさに発射しようとしていたところであった。Xが投げたビール瓶は手許が狂ったため別の方向に飛んで行き、公園内を歩いていたBの頭に当たり、さらにBの頭に当たった拍子に割れ、その破片が近くを歩いていたCに命中した。Bは頭部裂傷、Cは右頬を切る傷害を負った。加えて、ビール瓶がBの頭に当たり割れた際に大きな音が発生し、Aも驚き手許が狂ったため、猟銃の弾は予想外の方向に飛んで行った。猟銃の弾は誰にも当たらなかった。なお、AがXに猟銃を向けていたことには、Xは全く気付いていない。

以上